

# 「東日本大震災」対策 news NO.42

2011年5月2日(月)

生協労連震災特設 URL <http://cwu.jp/action-cms/shuto/>

全国生協労働組合連合会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-1-9

TEL 03-3408-0067 <http://cwu.jp/>

FAX03-3408-8955 QYG03057@nifty.ne.jp

## ボランティア支援報告 かながわ生協労組福田委員長 これからも被災者に寄り添って

全労連のボランティア支援でかながわ生協労組の福田裕行委員長が、4月14日から4日間、岩手県大船渡市三陸町に入りました。以下、ボランティア支援をおこなっての感想です。

私は以前、盛岡から秋田の乳頭温泉へ数ある湯治場をたどった旅をしたことがあるが、三陸の方面に来るのは初めてだった。今回、大船渡市の三陸町地域への現地支援の4日間で何よりもまず、この地の生活と風土について知ったことに感謝したい。「これからウニがおいしい時期だったのに残念だ。本当は海の幸を出す宿なのにこんな(肉料理)物しか出せないのはつらい。うちの船は3隻あったが全てダメになった」(あづま荘のご主人)、「小学校は全校でも30人。小中学校と自治会が一緒になって運動会をやるくらい子供が少ない地域」(市職員)、「仕事は漁業と役場くらい。役場も赤字で今後どうなるのか。」(浜で会った漁師)、「三陸鉄道は大赤字。老人の多い地域の足だったが廃線か」(甫嶺の被災者の方)、111あるという岩手の漁港のうち「使えそうなのは3つだが大潮の時をみて可能性があるのは1つのみ。養殖も出荷まで5-10年かかる」(県の役人)。



私が本当に辛かったのは、3.11前の三陸町を知らないことだ。私たちのお世話になった「あづま荘」に、40前後の夫婦が泊まりに来ていた。「毎年ここにお邪魔していたので来たかった。今回土日だけだけど、やっとここに来てよかった」と語る言葉が忘れがたい。

被災する前の三陸町はどんな町だったのか、もう絶対に見ることはできない。しかし、3.11前の三陸町を美化することもできないだろう。震災後も美しい山と海が目の前に広がって、付近の山の中には鹿が群れて移動していたが、海底は被災地以上にぐちゃぐちゃになっていることだろう。ここは高齢化と過疎の地域であり、亡くなった方の多くは高齢の方が多かったであろう。復旧や復興というが、この言葉のうつろな響きを現地の当事者の方々ほど冷めて受け止めている人はいないのでないか。「この震災でもっと人がいなくなるのではないか」。お世話になった大船渡三陸支所の若い職員はつぶやいた。崎浜小学校の校庭で遊んでいた子供たちの行く末に、どのような未来があるのだろうか。

帰路、岩手労連の中村さんに送っていただき、18時に盛岡に着き、夜行バス出発の24時まで時間があつた。時間つぶしにナイトショーでも観ようと映画館を探すと「映画館通り」があるという。映画館が入る古い建物が並んでいた中で唯一21時過ぎまでやっていた映画館があった。たった一人の貸切状態で見た映画が「津軽百年食堂」だった。東京に出た若者が故郷の青森県弘前市に戻り、三代続く津軽そば屋「大森食堂」を継ぐ話だ。故郷に戻った主人公が幼馴染みの仲間と繰り広げるエピソードと頑固親父とのやりとり、そして100年前の「大森食堂」一代目の話を交互に重ねながら、土地の記憶と人の想いを受け継ぎ、人に寄り添って生きることを決意する現代の若者の姿を描いたものだ。

東北の地である三陸町と弘前を重ねあわせ、故郷を持たない私は少し複雑な気持ちになった。神奈川にも多くの東北出身の人がいて、知り合いや親族に被災された方がいる人も多い。私自身は今回の震災をまず三陸町を通じて、より深く認識したいと思う。復興や復旧と言う前に、3.11前の三陸町の記憶や人々の想いをより深くつかみたいと思う。この上で、かの地の当事者の人たちに寄り添い、できることを一つ一つ、ともに行っていきたいと、強く思う。

(かながわ生協労組 福田委員長)



## コープネット労組がいばらきコープ労組への支援を継続して実施

3月11日の東日本大震災は茨城県にも大きな被害をもたらしました。被災後のいばらきコープのとりくみについては4月23日（土）のテレビ朝日の「やじうまテレビ」でも放映されました。

大震災は首都圏の生協にも大きな被害をもたらしましたが、なかでも被害が大きかったのはいばらきコープやシーエックスの物流施設でした。こうしたなか、コープネット労組はいばらきコープ労組への継続的な支援をおこなってきました。以下、コープネット労組馬場副委員長の報告です。

前日から何度も余震有り。大型トラックが入ってくるので余震とトラックの地揺れで、いばらきの労組室は一晩中揺れまくり。労組室の床にじかに寝たので、積もっていた花粉に襲撃され続けた。

6:50 いばらき労組室を丸山さんと出発。炊き出しではなく、買い物難民の北茨城市に移動販売。常磐道が福島いわきまで開通していたが、朝5時ころの事故で日立南太田以北が通行止め。サービスエリアで待機していたところ震度5弱の余震があり、千代田石岡からいわき勿来まで通行止めになってしまったため、日立南太田から一般道へ脱出… したと思ったら、5分後に事故の通行止めが解除。再び常磐道からいわき勿来へ。一箇所目の目的地は、現地の自治会長から販売許可が下りず、2箇所目の汐見住宅街へ移動。（ここまで6時間以上）

汐見住宅では、組合員理事さんや町内会長と一緒に、持ってきた商品を販売。懐かしい組合員さんと一緒にの行動。地域の方も「ガソリンがなく買い物ができなかった。」「食料が底をつきていた。助かった。」と大変喜んでいて。また、いばらきコープのクッキングカーも同行し、焼きおにぎりや卵雑炊、卵スープなどを振舞って喜ばれた。

その後場所を移してもう1箇所販売。菓子パン売り切れ。水2Lペット売り切れ。カップヌードル、トイペ、焼き菓子、赤飯等はほぼ完売。食パンは持ってきすぎで大幅売れ残り。野菜・冷蔵・冷凍品以外はほとんどの商品を持ってきたので好評だった。

17:30 販売終了。寒い中終了後に食べたカップヌードルが異様においしかった。土浦に福島からの避難者が多数移動してきているので、本日大幅に売れ残った食パンを茨城労組が買い取って活用する予定。（コープネット労働組合 馬場副委員長）



コープネット労組が送った洗濯機

## 「目に見えない悪魔放射能がもたらしている深刻な事態

### 「何もかも捨てて避難しなければならない」と憤る酪農家

放射能の汚染レベルが高いことから計画的避難区域に指定された飯館村の酪農家などは、いま深刻な事態をむかえています。同村の下飯樋（しもいとい）で牛の繁殖事業をしている農家では、「いつ避難指示が出るか全くわからないので何にも手がつかない。家の掃除をする気力もなくなった」と話しています。これまでも避難を考えたが、親子の牛12頭を見放さなくてはならなくなるので、できなかったといいます。いつもと何にも変わらない風景の中で、今度避難指示が出れば酪農を「廃業」せざるをえず、原野を切り開き2代で苦労して築いた農場を見捨てさせる原発事故からの放射能を「目に見えない悪魔」と表現していました。（コープふくしま大震災ニュース がんばっぺ編16より）



牛を捨てて避難できないと  
悩む農家